

名称	医療法人社団筑波記念会	筑波記念病院
設立	1982 年 2 月	
理事長	小關 剛	
病院長	榎本 強志	

診療科目 30科目

内科／循環器内科／呼吸器内科／消化器内科／血液内科／
神経内科／糖尿病・内分泌代謝内科／アレルギー科／リウマチ科／
外科／脳神経外科／心臓血管外科／呼吸器外科／消化器外科／
整形外科／形成外科／小児科／小児外科／婦人科／精神科／皮膚科／
眼科／耳鼻咽喉科／泌尿器科／リハビリテーション科／放射線科／
麻酔科／病理診断科／救急科／美容皮膚科

研修医出身大学

秋田大学／岩手医科大学／筑波大学／慶応義塾大学／
東京医科大学／東京女子医科大学／日本大学／東海大学／
信州大学／宮崎大学／琉球大学／セグド大学／ペーチ大学

机遇

- ・身 分 常勤
- ・給 与 1 年次 月額 400,000 円／モデル年額 5,600,000 円
2 年次 月額 470,000 円／モデル年額 6,900,000 円
3 年次 月額 550,000 円／モデル年額 9,000,000 円
4 年次 月額 600,000 円／モデル年額 9,600,000 円
5 年次 月額 650,000 円／モデル年額 10,200,000 円
6 年次 月額 660,000 円／モデル年額 10,550,000 円
※モデル年額には当会規程による手当含
(当直手当 4 回/月、処遇改善手当等)
- ・諸 手 当 当会規程による
- ・勤務時間 8:30 ～ 17:30
- ・休 暇 有給休暇 (初年度 10 日)、夏季休暇、年末年始休暇等
- ・保 険 健康保険、厚生年金保険、労災保険、雇用保険
- ・宿 舎 あり
- ・保育施設 あり
- ・健康管理 年 2 回の職員健康診断
- ・福利厚生 職員寮、医療費減免制度、併設レストラン割引、
併設スポーツジム割引、職員旅行、
スポーツ大会 (バレー、ゴルフ)、大忘年会他

採用情報

- | | |
|---------|---|
| 臨床研修医 | 10 名 |
| 専攻医 | 内科 3 名／外科 2 名／救急科 2 名／
リハビリテーション科 2 名／麻酔科 2 名 |
| 採用担当 | 増井・栗山（リクルートセンター） |
| 専用電話番号 | 029-864-6860 |
| 専用FAX番号 | 029-864-6860 |
| 専用HP | https://www.tsukuba-kinen-recruit.com/ |
| e-mail | recruit@tsukuba-kinen.or.jp |

グループ体制

医療法人社団筑波記念会は一人ひとりの患者さんに最初から最後まで向き合う医療を目指しています。予防医療、入院・手術、リハビリ、在宅支援まで、切れ目のない体制を持つ医療グループです。



交通案内・アクセスマップ

つくば駅(つくばセンター)までのご案内



- ・電 車 つくばエクスプレス (TX) つくば駅下車
(秋葉原駅から約 45 分)
- ・路線バス JR 常磐線土浦駅・荒川沖駅・ひたち野うしく駅から
つくばセンター行「つくばセンター」下車
(所要時間約 30 分)
- ・高速バス JR 東京駅八重洲南口 2 番のりばから
つくば行「つくばセンター」下車 (所要時間約 70 分)

つくば駅より無料送迎バスを運行しています。



車でお越しになる場合



- ・つくばエクスプレス(TX)
つくば駅または研究学園駅
から約10分
- ・常磐道谷田部インター・
桜土浦インターから約25分
- ・圏央道つくば中央インター
から約15分

病院見学受付中

お気軽にお申し込みください

詳細はホームページをご覧ください

<https://www.tsukuba-kinen-recruit.com/>



臨床研修について
SNSで発信中！



臨床研修医・専攻医募集案内



〒300-2622 茨城県つくば市要 1187-299
TEL:029-864-1212 URL:<https://tsukuba-kinen.or.jp/>



これから医師として活躍していく皆さんへ

理事長メッセージ



筑波記念グループ
CEO / 法人理事長

小関 剛

これから皆さんは研修医・専攻医となっていく中で、数多くの症例を経験していくと思います。その中で、当院の基本方針である『**逃げない・諦めない・見捨てない医療を提供する**』、ことを是非実践できる医師になっていただきたいです。症例を数多く深く積んでいく、手技を覚えていく、これは必須なことです。しかし、患者さんの生死や受け入れ難い現実から逃げない、自分を頼ってくれる患者さんを見捨てない、そして行っている医療を決して諦めない、ことを徹底していただきたいと願っています。当院の臨床研修では、2年後に主治医として1人で診る上でこのことを忘れずに患者さんと向き合うことができることを目標としています。どんな症例にも自ら関わっていく、そして自ら携わった患者さんに対して最後まで責任を以て診るようにしていただけたら幸いです。

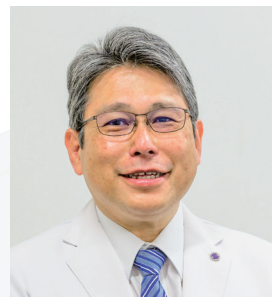
当院では年間約6,000台の救急車を受け入れています。『最初に頼られる救急病院』を第一のvisionとしており、県内でも3番目に多い実績となりました。二次救急病院であるため高齢者救急が多い一方で『集中治療まで対応可能な急性期拠点病院』を目指し、集中治療を要する重症例や心血管手術や脳血管手術等の三次症例まで対応を行っています。当院

の救急医療では、二次救急病院がどこまでやれるかを一つの目標にしています。二次救急病院がどれだけ頑張って急性期医療の提供ができるかが地域医療の充実度につながると考えているからです。

全身麻酔手術としても昨年度は年間約2,300件の手術をし、開心術・血管内治療から、悪性腫瘍症例のロボット支援手術、整形外科領域の手術まで多岐にわたって行いました。地域医療支援病院として、『いつでも相談しやすい病院』をvisionに掲げているため、緊急紹介も年々増加傾向となり、昨年度は約370件の緊急手術を行いました。外科に限らず専攻医の先生方にとっても多くの経験ができるのではないのでしょうか。既存の内科・外科・救急科・リハビリテーション科に加え、麻酔科も加わり、5つの専門研修プログラムとなります。いずれもサブスペシャリティまで修練できるコースです。『患者に誠実に、医療に誠実な人財を育成できる臨床教育病院』として、一般病院でありながら若い先生方が将来も見据えながらフットワークよく研鑽を積んでいただける環境を目指しています。是非熱意を以て共にこの地域を盛り上げる仲間になっていただけることを願っています!!

充実した研修環境での豊富な経験は医師人生の財産となる

病院長メッセージ



医療法人社団 筑波記念会
筑波記念病院 病院長











榎本 強志

皆さん、若い医師とベテランの医師の一番大きな差は何だと思いますか。それは経験です。医師になりたての頃にできるだけ多くの患者さんを経験することが、その後の医師人生の財産になります。当院は茨城県南地域の中核病院、地域支援病院として年間6,000件の救急搬送を受け入れており、多数の救急患者さんを診ることができます。回復期リハビリテーション病棟、地域包括ケア病棟、健康増進施設も併設しており、慢性期医療、リハビリテーション、在宅医療、予防医療などの経験も可能です。手術支援ロボット・ダヴィンチも導入し、高度先進医療にも取り組んでいます。臨床研修では多くの患者さん

を診ることによってプライマリ・ケアの基本的な臨床能力を幅広い領域で身につけることができます。また将来のサブスペシャリティ領域の専門医取得を視野に入れた専門研修も可能です。

「誠意をもって最善をつくす」を基本理念に、いかなる状況にあっても目の前にいる患者さんの治療に全力を尽くすことを実践しています。そのために必要な確かな知識と技術、誠実で謙虚な姿勢は経験豊富な先輩から指導を受けることができます。この理念に賛同してくださる若い医師の皆さん、当院での研修で将来の財産になるたくさんの良い経験をしてみませんか。

TSUKUBA MEMORIAL HOSPITAL DATA

 病床数	487床	 常勤医数	110人
 指導医数	臨床研修 56人 専門研修 33人	 研修医数	臨床研修医 19人 専攻医 21人
 外来患者数	886人/日	 救急外来患者数	30件/日
 入院患者数	405人/日	 救急搬送数	6,200件/年
 手術件数	27件/日	 心肺停止状態搬送患者数	85人/年



2026年6月
回復期リハビリテーション病院
新設予定

地域包括ケア病棟 32床
回復期リハビリテーション病棟 120床
計 152床

臨床研修プログラム

地域第一線急性期病院ならではの豊富な症例に基づく、プライマリ・ケアの基本的な診療能力（態度、技能、知識）を身につけるとともに、医師としての人格を涵養します。

POINT 1 将来の進路に合わせた選択性の高いプログラム

選択性が高く、院内外を問わず、診療科・協力型病院・時期・期間を希望に応じて、オーダーメイドのローテーションを組むことができます。



POINT 3 臨床能力の向上をめざす教育

年一度の院内学術集会に加え、学会発表の機会もあり、上級医のサポートを受けながら研究に取り組むことができます。救急科研修ではカンファレンスでのプレゼン、ディスカッションを通じてアセスメント能力を身につけます。



POINT 2 研修医のニーズに応じた指導

数多くの手技は指導医のもと段階を追って経験できます。他の診療科でも稀な処置等があると声をかけてもらえます。研修医が学びたい、経験したいことを病院全体でサポートします。



POINT 4 志の高い仲間

当院には国内外の大学から多種多様なバックグラウンドを持った人材が集まっています。現役、社会経験のある人等志の高い仲間たちと日々切磋琢磨し、医師として成長します。



研修プログラム（例）

【協力型病院および協力型施設】筑波大学附属病院、福島県立医科大学附属病院、日本医科大学付属病院、東京医科大学病院、水戸済生会総合病院、JAとりで総合医療センター、東京医科大学茨城医療センター、茨城県立こども病院、ホスピタル坂東、水海道厚生病院、つくば在宅クリニック、小豆畑病院、つくば保健所、小山記念病院、総合守谷第一病院、白十字総合病院、筑波中央病院、筑波総合クリニック、つくばケアセンター

1年次

産婦人科・小児科・精神科：大学病院又は市中病院より選択

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
内科 (6ヵ月)						救急科 (3ヵ月)			麻酔科 (1ヵ月) ※病院必修	外科 (1ヵ月)	外科 (1ヵ月) ※病院必修

2年次

産婦人科・小児科・精神科：大学病院又は市中病院より選択

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
産婦人科 (1ヵ月)	小児科 (1ヵ月)	精神科 (1ヵ月)	地域医療 (1ヵ月)	選択科 (8ヵ月)							

指導医からのメッセージ

臨床研修プログラム責任者

一色 雄裕

当院では急性期医療だけでなく、リハビリ医療、慢性期医療、在宅医療、予防医療、介護施設など幅広い領域におけるシームレスな研修が可能です。経験豊富な指導医が直接指導にあたるだけでなく、各診療科・各職種の垣根を超えた風通しの良いカンファレンスを行うなど、病院全体で研修医の成長をバックアップしています。

研修プログラムは柔軟性に富み、研修医の希望

や各スタッフの意見を迅速に反映しながら、病院一体となってより良い教育環境を目指しています。臨床研修はもちろんのこと、症例発表などの学術的なプログラムにおいても充実を図り、両面のバランスがとれた経験を積むことができます。

「質の高いスペシャリスト」へと繋がる「ジェネラリストとしての基盤」が築けるように支援します。



基本情報におけるプログラム連携状況

	内科	小児科	皮膚科	精神科	外科	整形外科	産婦人科	眼科	耳鼻咽喉科	泌尿器科	脳神経外科	放射線科	麻酔科	病理診断科	臨床検査科	救急科	形成外科	リハビリテーション科	総合診療科
基幹施設	●				●								●			●		●	
連携施設	●				●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		●	●	●	●

内科

【筑波記念病院(基幹病院)】消化器内科、循環器内科、血液内科、糖尿病・内分泌代謝内科、呼吸器内科、神経内科、一般内科より選択
【連携施設】筑波大学附属病院、東京都立墨東病院、東京医科大学病院、東京医科大学茨城医療センター、総合病院土浦協同病院、きぬ医師会病院、龍ヶ崎済生会病院、協和中央病院、白十字総合病院、鹿嶋ハートクリニック、茨城東病院、筑波総合クリニック より選択

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目	筑波記念病院(12ヵ月)											
2年目	連携施設(12ヵ月)											
3年目	筑波記念病院(12ヵ月)											



指導医からのメッセージ

内科専門研修プログラム統括責任者 池澤 和人

指導医計16名(循環器:6名、消化器:3名、血液:4名、呼吸器:1名、脳神経:2名)とともに、ガイドラインだけでは学び切れない臨床の醍醐味を経験し、あなたの成長を加速させます。地域医療の最前線という活きた教科書の中で難症例に挑み、

さらに当院最大の強みであるリハビリテーション部門と連携しつつ、実践的な臨床センスを鍛え上げる環境が整備されています。もちろん、卓越した診断能力や患者さんの心を掴む人間力を養うこともできるでしょう。指導医の適切なサポート

のもと、最新の医療機器を駆使して臨床スキルを向上させながら、学会発表や学術研究の機会も豊富に提供します。あなたの挑戦を全力でバックアップします。内科医としての第一歩を、当院の専門研修プログラムで踏み出してみませんか！

外科

【筑波記念病院(基幹病院)】消化器外科、心臓血管外科、呼吸器外科より選択
【連携施設①～⑥】東京医科大学茨城医療センター、小豆畑病院、茨城県立こども病院、北茨城市民病院、川崎病院、白十字総合病院、鹿嶋ハートクリニック、自治医科大学附属さいたま医療センター、東京医科大学病院 より選択(消化器外科、心臓血管外科、呼吸器外科、小児外科、乳腺・内分泌外科より選択)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目	筑波記念病院(12ヵ月)											
2年目	連携施設①(3ヵ月)			連携施設②(3ヵ月)			連携施設③(3ヵ月)			連携施設④(3ヵ月)		
3年目	連携施設⑤(3ヵ月)			連携施設⑥(3ヵ月)			筑波記念病院(6ヵ月)					



指導医からのメッセージ

外科専門研修プログラム統括責任者 上田 和光

当外科専門研修プログラムでは、ジェネラリストとしての基盤を持つスペシャリストの育成を目的とし、地域第一線病院としての日常診療の中、診療科間の枠を極力排除し、可能な限り幅広い医療を経験できます。数多く受診される急性期

の患者さんを通して、専門的な検査・治療を経験できるよう、また本人の希望、意欲に応じて研修病院、研修科目を選択できるよう配慮しています。研修の指導は、経験豊富で十分な学識と技術を有した、認定医・専門医資格を取得した医師

が担当し、各診療科指導医から直接指導が受けられるだけでなく、風通しの良いコンサルテーション、垣根のないディスカッションを通して、専攻医の成長をバックアップします。

救急科

【連携施設】聖路加国際病院、浦添総合病院、日本医科大学付属病院、東京医科大学八王子医療センター、水戸済生会総合病院 より選択

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目	筑波記念病院(12ヵ月)											
2年目	連携施設(12ヵ月)											
3年目	筑波記念病院(12ヵ月)											



指導医からのメッセージ

救急科専門研修プログラム責任者 長田 雄大

当院は地域のニーズに応える二次救急病院として、年間約6,000件の救急搬送を受け入れています。「素直に、謙虚に、一生懸命」という姿勢を大切に、初期診療に必要な知識・技術・態度を育てる教育を行っています。

二次救急を中心に重症患者の初期対応やICUでの管理までを担い、実践的かつ幅広い臨床経験が可能です。県内外の救命救急センターとも連携し、より高度な現場を経験する機会もあります。他科との垣根が低く、専門医と連携し

て日常的に学べる点も魅力です。さらに、国際学会発表や英語論文執筆の実績もあり、学術的成長も後押しします。県内で救急医を目指す上で、教育体制・指導環境の整った当院での経験は、どの現場でも通用する力を育みます。

リハビリテーション科

【連携施設①～④】帝京大学医学部附属病院、志村大宮病院、初台リハビリテーション病院、船橋市立リハビリテーション病院、戸田中央リハビリテーション病院、霞ヶ浦リハビリテーション整形外科クリニック、ひたちなか総合病院、水戸赤十字病院、有田内科整形外科リハビリクリニック より選択

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目	筑波記念病院(12ヵ月)											
2年目	連携施設①(6ヵ月)						連携施設②(6ヵ月)					
3年目	連携施設③(6ヵ月)						連携施設④(3ヵ月)			筑波記念病院(3ヵ月)		



指導医からのメッセージ

茨城県地域総合リハビリテーション専門研修プログラム統括責任者 伊佐地 隆

私達のプログラムは、私立の地域支援病院を基幹施設として、地域に目を向けた総合的なリハビリテーションを指向した研修を組み立てられることが最大の特徴です。大学を基幹とする他のプログラムよりも、非常に自由度の高いプログ

ラムを作ることができ、臨床各科との協力で多岐にわたる疾患に対し、年代も小児から高齢者まで、さらに病期についても回復期はもちろんのこと超急性期から生活期、終末期までのすべてに渡り、医療のみならず介護領域まで多様なリ

ハビリテーションを3年間で経験でき、バランスのとれたジェネラリストとしてのリハビリテーション科専門医になることができます。各年定員は2名です。早めに見学と相談にお越し下さい。

麻酔科

【連携施設】筑波大学附属病院、自治医科大学附属さいたま医療センター、ひたちなか総合病院 より選択

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目	筑波記念病院(12ヵ月)											
2年目	連携施設(12ヵ月)											
3年目	連携施設(12ヵ月)											
4年目	筑波記念病院(12ヵ月)											



指導医からのメッセージ

麻酔科専門研修プログラム統括責任者 高瀬 肇

当院は年間2,400例あまりの手術を麻酔科管理で行っており、その中には小児麻酔、心臓血管麻酔などの経験必要症例も含まれています。ただ、当院には産科がありませんので帝王切開の麻酔については連携施設で研修していただ

くことになります。その他、ダヴィンチ手術、ハイブリッド手術室での手術も扱っています。当院の手術の中で最も多いのは整形外科手術であり、エコーガイド下末梢神経ブロックも多数施行しております。常

勤医は全員麻酔科専門医資格を有しており、また、ペインクリニック外来も行っております。様々な麻酔研修ができる当院で麻酔科医としての第一歩を踏み出してみませんか？

成長する機会を多く与えてくれる環境



臨床研修医1年目 村上 朔人

出身地／茨城県
出身大学／信州大学(2025年卒)

法学部を卒業後、医師の道に進みました。将来は整形外科を考えていたことから、整形外科に強い当院に興味を持ちました。病院見学をした際には、スタッフのみなさんが他病院と比べて圧倒的に柔らかく、雰囲気が抜群に良かったことから初期研修の第一志望に。救急にも強く、基本的かつ総合的な診療能力をしっかりと獲得できる環境も魅力でした。実際に研修が始まって見学時に感じた印象は変わっていません。相談のしやすさはもちろん、「何か困っていることはない?」と、積極的に声をかけてくださるのが嬉しいですね。こうした環境だからこそ、自分にいろんな制限をかけることなく、主体的にチャレンジすることができ、その分、成

長スピードも速いのではと感じています。フィードバックも充実していますし、上の先生方は個々の研修医の目標や能力を把握しながら、「〇〇の手技があるから、やってみようか!」と背中を押してくださるなど、成長する機会を多く与えてもらっています。毎日、一步一步着実に成長の階段を上っていることを実感しています。当院には研修医室が完備されているため、研修医同士、気兼ねなくいろんな話をしたりフレッシュしたり、経験したことを共有したり、2年目の先輩がいろんなアドバイスをくれたりと、こうした環境も気に入っています。それと、食堂のご飯がものすごく美味しい! 福利厚生が充実していることも魅力です。

1年後には驚くほど成長した自分に出会えます



臨床研修医2年目 岩窪 瑠南

出身地／東京都
出身大学／セグド大学(2022年卒)

当院は救急に強く、しかも二次救急病院ですので、研修医が主体的に対応できる症例が多いことも特徴。治療方針、検査オーダーを自分で考えながら、上の先生方のアドバイスやフォローもしっかりあり、一つひとつの症例に対して濃い学びを得ることができます。しかも、救急搬送件数は茨城県で三番目に多いため、他病院と比べて経験値を早く蓄積することができます。1年後には驚くほど成長した自分に出会うことができるでしょう。当直明けは休みですし、当直の最初の頃は2年目の先輩と一緒に入り、対応の基礎中の基礎を教えてもらいながら、徐々に慣れていくため安心です。何かあれば上の先生に聞くことができますし、研修医室に戻れば、先輩研修医にたくさ

ん相談することもできるなど、フォロー体制も万全です。研修プログラムは、希望を提出した後に「やっぱりこの科を回りたい」と気持ちが変わっても、それを聞いてくださるほど自由度が高いです。自由選択期間も長いため、基礎力をしっかり養いつつ、自分のやりたいこともしっかり経験することができます。同期とはご飯に行ったり、飲み会をしたり、とても仲が良かったですね。経験した症例を共有したり、一緒に考えたり、技師さんをお願いして心臓エコー検査の練習を一緒にしたり、研修医主催の勉強会を開催したりと、みんな学びに貪欲で熱心。そんな環境も大きな魅力だと感じています。

コメディカルの方々も優しく優秀。雰囲気の良いさも抜群

初期研修から当院にお世話になっています。3年目も残ると決めるとき、呼吸器内科の部長から、「金谷先生が今後こういう病院でこういう学びがしたいと思ったらいつでも言ってね。提携してもらえようをお願いするから」と仰っていただけたことがすごく嬉しかったですね。専攻医一人ひとりの希望に沿った柔軟な研修体制、自由度の高いプログラムが特徴であり、さらに、内科の先生は経験も実績も豊富で人間的にも尊敬できる人ばかり。高度な知識や、診断・治療スキルだけではなく、患者さんやご家族に対して病状や治療方針を分かりやすく伝える技術や良好な信頼関係を築く方法などを学ぶことも魅力。先生方は優しく、質問しづらい雰囲気は一切ありません。それはコメディ

カルのみなさんも同じ。初期研修で外病院に行った際、当院のコメディカルのみなさんがいかに声をかけやすく、優秀であるかを実感したほどです。基本的に勤務時間内に業務は終了しますし、自己学習の時間もしっかり確保でき、学んだことを確実に自分のものにすることができます。私は現在、妊娠しており、専攻医一年目で産休・育休を取るため、「周りに迷惑をかけてしまい大丈夫だろうか?」と不安に思っていました。ですが、みなさん笑顔で「おめでと〜!」と自分の事のように喜んでくださるなど、こうしたあたたかい環境で働けることの幸せを改めて感じています。



専攻医1年目 金谷 彩加
内科専門研修プログラム

出身地／茨城県
出身大学／昭和大(現・昭和医科大学)(2023年卒)

研鑽と成長に最良の環境。オフも充実しています

他病院の外科専門研修プログラムで3年間研鑽した後、当院の救急科専門研修プログラムに入りました。救急は他科との連携が重要となります。当院は各科が積極的に救急に協力してくださいますし、大規模病院とは異なり、先生方一人ひとりの“顔が見える”ため、コミュニケーションやコンサルトがしやすいことも魅力。こうした環境は、救急医としての研鑽と成長に最良の場であると言えるでしょう。救急科は指導が丁寧であることも特徴。医師としてある程度経験を重ねてくると、知らず知らずのうちに肌感覚で診療をしてしまうこともあり、基本事項であっても丁寧に指導していただけるのはすごくありがたいですね。当院は年間6,000台もの救急搬送があ

り、しかも二次救急病院であるため、三次と比べて専攻医が一人で診ることのできる数が格段に多いことも魅力。救急医に大切な“隠れた重症患者を見逃さない力”をしっかり養うことができます。また、一つひとつの症例を深掘りしていくことも大切にしており、指導医の先生から「今回のケースはこうだけど、ガイドラインや論文ではこうなっている」といった、きめ細かな教えがあるなど一つの症例から多くを学ぶ環境も特徴です。救急科の先生とはオフも一緒に過ごすことがあり関係性も良好。オン・オフが明確で、常にフレッシュな気持ちで仕事ができることも魅力です。救急医を目指している方は、自信をもって当院をおススメします。



専攻医1年目 楠 尚祐
救急科専門研修プログラム

出身地／茨城県
出身大学／東京医科歯科大学(現・東京科学大学)(2020年卒)